

科目番号: 37

分野	専門分野(基礎看護学)				
科目名(必修)	看護学概論				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論(医学書院)</p> <p>フロレンス・ナイチンゲール 看護覚え書(現代社)</p>					
<p>目的</p> <p>人間、健康、保健医療福祉の概念とともに看護の概念を理解し、現代社会の中での看護の位置づけと役割を学ぶ。</p>					
<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の歴史的変遷や理論家による看護の捉え方を学び、看護の主要概念について考えることができる。 2. 看護の機能と役割を看護理論家や専門団体等による定義より理解できる。 3. 健康の概念と健康を守る医療保健チームの役割と看護の提供の仕組みを理解できる。 4. 看護師の状況やキャリア開発について理解できる。 5. 医療、看護をめぐる倫理原則を理解し倫理的問題の解決について理解できる。 					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	看護における基本概念:人間、健康、環境、看護、看護の歴史				講義
2	看護実践の基盤となる理論(ナイチンゲール)				講義
3	看護実践の基盤となる理論(ヘンダーソン)				講義
4	看護の機能と役割、看護の専門性				講義
5	看護の対象、人間のこころとからだ				講義
6	ホメオスタシスとは、ストレス学説からとらえた看護の対象				講義
7	人間の暮らし、生活、家族、地域に対する看護活動				講義
8	健康とは、健康障害とは、健康に影響を与える要因とは				講義
9	看護における倫理				講義
10	看護職の倫理綱領				演習
11	看護実践演習(腰背部温罨法演習)				講義・演習
12	看護実践過程、専門職としての臨床判断能力・リフレクティブサイクル				講義
13	看護の継続性と多職種連携				講義
14	看護師養成制度・看護師のキャリア開発、看護提供システムと診療報酬				講義
15	試験、まとめ				講義
評価方法・評価基準					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					
看護を学ぶ上での基礎となります。看護は幅広い学習が必要になります。様々なことに関心を持ち視野を広げ学んでおきましょう。					

科目番号: 38

分野	専門分野(基礎看護学)				
科目名(必修)	看護共通基本技術				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
講義回数	15回	開講時期	前期		看護師
					看護師
テキスト					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ(医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院)					
目的					
看護技術の概念を理解し、看護を実践するための基礎となる共通する技術を学ぶ。					
目標					
1. 看護技術の特殊性について理解できる。					
2. 看護場面におけるコミュニケーションの意義と技術が理解でき、活用できる。					
3. 看護における観察・記録・報告の意義が理解できる。					
4. 看護における安全・安楽・自立の意義とその方法が理解できる。					
5. バイタルサイン測定の意義とその変動因子を理解し、正確な測定ができる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	看護技術の特徴と概念				講義
2	看護場面におけるコミュニケーションの意義				講義
3	看護場面におけるコミュニケーション				講義・演習
4	看護場面におけるコミュニケーション				講義・演習
5	プロセスレコードの検討				講義
6	アサーション				演習
7	看護活動における観察の目的と意義				講義
8	看護活動における記録・報告の目的と意義				講義
9	安全安楽のための技術				講義
10	バイタルサイン、バイタルサイン測定の意義、体温				講義
11	呼吸、意識				講義
12	脈拍、血圧				講義
13	バイタルサイン測定方法				講義
14	バイタルサイン測定の実際				演習
15	試験、まとめ				講義
評価方法・評価基準					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					
看護援助の基盤となる技術の学習です。自ら積極的に技術練習に取り組んでください。					

科目番号: 39

分野	専門分野(基礎看護学)				
科目名(必修)	環境を整える看護技術				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		
テキスト					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I (医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II (医学書院)					
目的					
人間にとって快適で安全な生活環境を理解し、整えるための知識と技術を習得する。					
目標					
1. 人間が生活するための適切な環境条件が理解できる。					
2. 看護における環境調整の意義と役割、方法が理解できる。					
3. 活動・休息の意義を理解し、活動・休息が障害された対象のニーズを理解することができる。					
4. 体位の種類と適応、体位変換・移動の目的と方法を理解し、安全・安楽に配慮した活動の援助ができる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	環境とは(外部環境と内部環境)、人間・健康・環境・看護の関連				講義
2	病室と病床環境の基礎知識				講義
3	病床を整えるための基礎知識				講義
4	病床を整えるための援助技術(ベッドの取扱い、リネンの畳み方)				講義
5	ベッドメイキングの実際(デモンストレーション)				講義
6	ベッドメイキングの実際				演習
7	ベッドメイキングの実際				演習
8	臥床患者のシーツ交換(デモンストレーション)				講義
9	臥床患者のシーツ交換				演習
10	臥床患者のシーツ交換				演習
11	活動とは、ボディメカニクス、体位変換と移乗・移送の援助				講義
12	睡眠・休息とは、睡眠休息を整える援助				講義
13	体位変換、移乗・移送の実際				演習
14	体位変換、移乗・移送の実際				演習
15	試験、まとめ				講義
評価方法・評価基準					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					
日常生活の援助として実施頻度が高く基本的な技術です。講義以外の時間を使い技術練習に取り組みましょう。					

科目番号: 40

分野	専門分野(基礎看護学)				
科目名(必修)	身体の清潔を保つ看護技術				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		
テキスト					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I (医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II (医学書院)					
目的					
人間にとっての清潔の意義を理解し、対象に適した清潔援助を実践するための知識・技術・態度を習得する。					
目標					
1. 清潔の概念を健康生活と関連付けて理解できる。					
2. 患者にとっての清潔の意義と必要性を理解できる。					
3. 対象の健康状態や個別的条件に応じて、清潔の援助方法を判断し選択できる。					
4. 清潔援助を実践するための、知識・技術・態度を習得できる。					
5. 演習において対象に配慮ある行動を意識して実践できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	身体の清潔				講義
2	清潔援助技術				講義
3	清拭デモンストレーション				講義・演習
4	清拭				演習
5	清拭				演習
6	清拭				演習
7	洗髪デモンストレーション				講義・演習
8	洗髪				演習
9	洗髪				演習
10	足浴				演習
11	足浴				演習
12	陰部洗浄				演習
13	口腔ケア				演習
14	口腔ケア				演習
15	試験、まとめ				講義
評価方法・評価基準					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					
日常生活の援助として実施頻度が高く基本的な技術です。講義以外の時間を使い技術練習に取り組みましょう。					

科目番号: 41

分野	専門分野(基礎看護学)				
科目名(必修)	栄養と排泄を整える看護技術				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		
テキスト					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I (医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II (医学書院)					
目的					
人間にとっての栄養と排泄の意義を理解し、対象に適した栄養と排泄を整えるための知識・技術・態度を習得する。					
目標					
1. 生命維持に不可欠な栄養、排泄の意義を理解する。					
2. 栄養・排泄の障害を理解できる。					
3. 栄養・排泄の援助が実践できるための知識・技術・態度を習得できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	栄養とは 基礎代謝量と推定エネルギー必要量				講義
2	必要水分量 食欲と食欲不振時の看護				講義
3	栄養のアセスメント				講義
4	嚥下のメカニズムと誤嚥予防				講義
5	胃管挿入と注入				講義
6	胃管挿入経腸栄養の投与				演習
7	胃管挿入経腸栄養の投与				演習
8	経静脈栄養、高カロリー輸液				講義
9	排泄の意義とメカニズム				講義
10	排泄障害				講義
11	床上排泄援助				演習
12	浣腸				演習
13	導尿、膀胱内留置カテーテル				演習
14	導尿、膀胱内留置カテーテル				演習
15	試験、まとめ				講義
評価方法・評価基準					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					
人間の欲求に大きくかかわる援助です。対象者の心理を考えながら援助を学んでいきましょう。					

科目番号: 42

分野	専門分野(基礎看護学)				
科目名(必修)	身体侵襲を伴う看護技術				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		
テキスト					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I (医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II (医学書院)					
目的					
感染予防に必要な基礎的知識、技術、態度を習得する。また、薬物療法における看護の役割と責任を理解し、対象に応じた実践のために知識・技術・態度を習得する。					
目標					
1. スタンダードプリコーション、感染経路別予防策の基礎知識を理解し、無菌操作の技術が習得できる。					
2. 吸入・吸引の基礎知識を理解し、口腔・鼻腔・気管内の吸引を実施することができる。					
3. 薬物療法の意義、与薬方法の種類と実際について理解できる。					
4. 皮下注射、筋肉内注射、点滴静脈内注射がモデルに実施できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	感染予防の基本的対策				講義
2	スタンダードプリコーション、経路別予防策				講義
3	洗浄・消毒・滅菌法				講義
4	衛生的手洗い、滅菌手袋の装着、ガウンテクニック				演習
5	無菌操作、創傷処置				演習
6	噴霧吸入、酸素吸入の基礎知識				講義
7	吸引の基礎知識				講義
8	口腔・鼻腔、気管内吸引の実際				演習
9	与薬に関する基礎知識				講義
10	注射器、注射針の取扱い				講義
11	皮内、皮下、筋肉内注射				演習
12	皮下注射、筋肉内注射の実際				演習
13	静脈内注射、輸血				講義
14	点滴静脈内注射の実際				演習
15	試験、まとめ				講義
評価方法・評価基準					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					
注射は身体侵襲を伴う援助技術です。解剖生理学を基に根拠を十分理解し技術を学んでいきましょう。					

科目番号: 43

分野	専門分野(基礎看護学)				
科目名(必修)	生体機能管理技術				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	7回	開講時期	後期		
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I (医学書院)</p> <p>系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II (医学書院)</p>					
<p>目的</p> <p>診療の場や検査における看護の役割を理解し、対象の特徴をふまえた実践のための知識・技術・態度を習得する。</p>					
<p>目標</p> <p>1. 生体検査・検体検査の基礎知識を理解できる。</p> <p>2. 静脈血採血の方法が理解できる。</p>					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	生体管理機能技術の基礎知識(検体検査の種類・目的・方法と援助、生体情報のモニタリング)				講義
2	静脈血採血の基礎知識				講義
3	静脈血採血の技術演習 真空管採血法				講義
4	静脈血採血の技術演習 真空管採血法				演習
5	静脈血採血の技術演習 真空管採血法				演習
6	検査の種類・目的と援助				講義
7	処置の種類・目的と援助				講義
8	試験				
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・評価基準					
筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					
検査・処置は対象の身体侵襲が大きいので対象の心理面に配慮しましょう。安全な技術を習得するために解剖生理学を基に根拠を十分理解して臨みましょう。					

科目番号:44

分野	専門分野(基礎看護学)				
科目名(必修)	フィジカルアセスメント				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		
テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ(医学書院) 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 山内豊明著 フィジカルアセスメントガイドブック 一目と手と耳でここまでわかる 第2版(医学書院)					
目的 看護援助のためのヘルスアセスメントに必要なフィジカルアセスメントの基本を理解する。					
目標 1. フィジカルアセスメントの方法が理解できる。 2. フィジカルアセスメントの基本的技術が実施できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	ヘルスアセスメントとは、フィジカルアセスメントの定義、問診				講義
2	フィジカルイグザミネーション(視診・触診・聴診・打診)				講義
3	呼吸器系のフィジカルアセスメント				講義
4	呼吸器系のフィジカルアセスメント				講義
5	循環器系のフィジカルアセスメント				講義
6	腹部のフィジカルアセスメント				講義
7	胸部・腹部のフィジカルアセスメントの実際				演習
8	胸部・腹部のフィジカルアセスメントの実際				演習
9	筋・骨格系のフィジカルアセスメント				講義
10	神経系のフィジカルアセスメント				講義
11	乳房・腋窩、頭頸部・感覚器のフィジカルアセスメント				講義
12	胸腹部以外のフィジカルイグザミネーションの実際				講義
13	フィジカルアセスメントOSCE				演習
14	フィジカルアセスメントOSCE				演習
15	試験・まとめ				講義
評価方法・評価基準					
筆記試験・実技試験を総合的に評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					
既習の解剖整理学の復習を十分行い、毎回の講義に臨みましょう。					

科目番号: 45

分野	専門分野(基礎看護学)				
科目名(必修)	基礎看護技術演習				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	後期		
テキスト					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ(医学書院)					
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院)					
目的					
学習した知識と技術を統合して、対象にあった日常生活援助を習得する。					
目標					
1. 設定した事例に合わせて援助の必要性を考え、日常生活援助の計画ができる。					
2. 立案した計画に沿って、日常生活の援助技術を実施することができる。					
3. 模擬患者に実施した看護援助の評価ができる。					
4. 看護者としての姿勢や態度について、自己を振り返り考えることができる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	演習の進め方についてのオリエンテーション				講義
2	受持ち患者記録、援助計画の作成				演習
3	援助計画の作成、技術演習				演習
4	援助計画の作成、技術演習				演習
5	援助計画の作成、技術演習				演習
6	援助計画の作成、技術演習				演習
7	援助計画の作成、技術演習				演習
8	模擬患者への実践、リフレクション				演習
9	模擬患者への実践、リフレクション				演習
10	模擬患者への実践、リフレクション				演習
11	模擬患者への実践、リフレクション				演習
12	模擬患者への実践、リフレクション				演習
13	模擬患者への実践、リフレクション				演習
14	模擬患者への実践、リフレクション				演習
15	技術試験・まとめ				演習
評価方法・評価基準					
課題・授業参加度30%、実技試験70%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					
この科目は、既習の看護技術を事例に合わせた方法で実施する演習です。看護技術の復習をしっかり行い演習に望みましょう。					

科目番号: 46

分野	専門分野(基礎看護学)				
科目名(必修)	看護過程展開の技術				
単位数(時間)	1単位(30時間)	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	後期		
看護がみえる vol.4 看護過程の展開(メディックメディカ)					
リンダJ. カルペニート著 黒江ゆり子監訳 看護診断ハンドブック 第11版(医学書院)					
百瀬千尋 編著 看護学生のためのレポート&実習記録の書き方(メヂカルフレンド社)					
目的					
事例を通して看護過程のステップを学び、看護の科学的思考の基盤となる理論と技術を習得する。					
目標					
1. 看護過程の概念が理解できる。					
2. 看護過程の各要素が理解できる。					
3. 看護過程の展開方法が理解できる。					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	看護過程の意義、看護過程の構成要素、クリティカルシンキング				講義
2	看護過程のステップ、ゴードンのアセスメントの枠組み				講義
3	事例提示、事前学習				講義・演習
4	関連図作成				講義・演習
5	関連図検討				講義・演習
6	各パターンの情報分類と整理				講義
7	各パターンの解釈・分析				演習
8	解釈・分析検討				講義・演習
9	各パターンの解釈・分析				演習
10	解釈・分析検討				講義・演習
11	看護問題の統合、全体像の把握				講義・演習
12	問題リスト作成、期待される結果				講義・演習
13	看護計画立案				講義・演習
14	実施・評価				講義・演習
15	看護要約				講義・演習
評価方法・評価基準					
課題提出内容、発表内容、参加度、出席時間を総合的に評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					

科目番号: 47

分野	専門分野(基礎看護学)				
科目名(必修)	研究方法論				
単位数(時間)	1単位(15時間)	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	8回	開講時期	後期		
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 別巻 看護研究(医学書院)</p> <p>はじめてでも迷わない! 看護のためのケーススタディ (医学書院)</p>					
<p>目的</p> <p>看護研究を実施するための基盤となる基本的知識および論文執筆までのプロセスについて学ぶとともに、演習を通して文献検索および文献カード作成の技術を身につける。</p>					
<p>目標</p> <p>1. 研究の分類および研究方法について理解できる。</p> <p>2. 文献データベースを活用し目的に沿った文献検索が実施できる。</p> <p>3. 論文の内容を適切に捉えた文献カードが作成できる。</p>					
授業計画・授業内容					
回	授業内容				授業方法
1	看護研究の意義と目的、研究の分類と特徴				講義
2	看護研究のプロセスと倫理的配慮				講義
3	文献レビューとクリティーク、文献検索・入手の方法				講義・演習
4	文献検索発表				演習
5	事例研究の方法				講義
6	論文の書き方、研究発表の方法				講義
7	事例研究の実際(研究発表視聴)				演習
8	事例研究の実際(研究発表視聴)				演習
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価方法・評価基準					
発表40%、文献カード作成40%、ディスカッション参加態度20%とし、100点中60点以上を合格とする。					
その他					
<p>《参考書》</p> <p>・回村佐和子 編:看護研究 第3版 ナーシンググラフィカ基礎看護学. 2017, メディカ出版.</p> <p>・黒田裕子 著:黒田裕子の看護研究Step by Step 第5版. 2019, 医学書院.</p>					